

# 臨床心理士論述試験対策授業での 中島総長より学んだことについて

教務課係長  
菅波謙司

今回、臨床心理士試験の論述問題対策のための中島総長先生の授業を受けまして、これまで中島総長先生が研修会にてご指導されてきました、効果的な学習方法や試験対策に有効な学習方法を改めて理解することができました。

東京福祉大学が開学して4年目、最初の学生が社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験を向かえるに至ったときも、中島総長先生は学生を合格させるために学生に対して学習方法をご指導されるとともに教員にも教育方法をご教授いただきました。結果、多くの学生が国家試験に合格しまして、東京福祉大学は合格者数が日本一となりました。心理学研究科の大学院を卒業生が受験する臨床心理士試験においても、以前は受験生の半数以上は必ず合格していましたが、近年は合格率も低下していることから、中島総長先生の授業で学生や教員の意識が変わり、多くの合格者がでることが期待できます。

今回の授業で中島総長先生は、論述問題の試験で合格するためにどのような学習をすればよいかをご指導いただきました。心理学の分野においては素人である私にとっても、わかりやすく何をすればよいか理解することができました。試験に合格できる学習方法がみつければ、学生も学ぶ意欲が高まります。教員とは学生を導いていくことが大切だとわかりました。中島総長先生が授業の中で、論述問題の回答方法重要なこととして以下のことをご教授いただきました。暗記をすること、難しい人は抜粋して重要なポイントを理解して暗記すること、試験には暗記したことを書く、問題を解くための近道を教員教えること。学生は清書した文書を先生に見てもらい直してもらったものを本番で書くということ。この方法は、臨床心理士試験だけでなく、全ての論述問題に対して有効でありますし、それが学生にとっても教員にとっても何をすればよいか分かりやすく説明いただきました。暗記を繰り返して、文書を書き、先生に見てもらい、直していくこと。これを繰り返し行うことで、学生の理解も深まりますし、文書が書けるようになりますため、学生の学習意欲も高まっていきます。筆記試験の学習方法でも効果的な学習方法をご教授され、その授業方法で学習した学生は、授業の最後の確認問題で全員が満点をとる取れることから、学生が授業を受ければできるようになると感じさせること、学習する意欲を高めることが大事であることを学ぶことができました。

私自身、過去に情報処理の国家試験合格を目指して学習したことがあり、試験に合格する時もあれば連続して不合格した時もありました。その時に中島総長先生のご教授を受けていれば、勉強方法や取り組みも変わっていたはずだと、授業を受けて感じました。

受験する側と教育する側の立場の違いはありますが、重要であることは、どの試験であっても、学生にどう学ばせれば試験に合格することができるのか、教職員全員が理解して、学生の将来のためであることを最も重視して、大学の教育に取り組むが必要であると感じました。

中島総長先生の授業を久しぶりに受けることができまして、大変嬉しく感じております。過去の学生が総長先生の授業を受けて一生懸命に学ぶ姿、そして試験に合格して笑顔で教務課に報告に来たり卒業式に出席する姿を思い出しました。今の学生、そしてこれからの学生の同じような姿を見たいと思いますとともに、そのための職務に全力で取り組んでいきたいと考える機会をいただきました。